

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	田崎美弥子先生ご略歴
別タイトル	Retired Professor Miyako Tazaki: Curriculum Vitae
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2024.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 71(1). p.2 4.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2023 041
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD11225434



田崎美弥子先生ご略歴

1958年9月30日生

- 1982年3月 慶應義塾大学文学部心理学科卒業
- 4月 ソニー井深研究室（財団法人幼児開発協会）研究職（同年8月末まで）
- 1983年8月 カンサス州立大学大学院人間発達学部修士課程入学
- 1986年5月 カンサス州立大学大学院人間発達学部修士課程修了
- 8月 カンサス州立大学大学院人間発達学部博士課程入学
- 1989年5月 カンサス州立大学大学院人間発達学部博士課程修了
- 1989年7月 日本IBM株式会社大和研究所ソフトウェア開発部門 エンジニア
- 1990年9月 World Health Organization (WHO) Division of Mental Health Scientist（日本IBM株式会社休職2年間 1992年8月末まで）
- 1992年9月 日本IBM株式会社大和研究所ハードウェア開発部門 エンジニア（1993年3月まで）
- 1993年4月 東京理科大学理学部二部一般教養嘱託専門講師
- 1994年4月 同 専門講師
- 1998年4月 東京理科大学大学院修士課程理数教育専攻 准教授（2008年3月まで）
- 2002年2月 日本心理学会認定心理士（登録番号6275）
- 2006年5月 Harvard University Medical School, Department of Mental Health, Massachusetts General Hospital, Clinical Observant (7

月まで)
 2009年4月 東邦大学医学部医学科心理学研究室教授
 2019年4月 東邦大学一般教育連絡会責任者
 2021年2月 公認心理師（登録番号 39267）
 現在に至る

主な研究分野

応用行動分析学, WHO Quality of Life (WHOQOL) 及び WHO Disability Assessment schedule (WHODAS) の日本語版開発調査研究, ニューロフィードバック療法適用研究

表彰

平成元年 IBM Excellent Award, 平成 29 年日本武道総合格闘技連盟名誉 4 段

主な学会役職

International Society of Quality of Life Research, Symposium Committee Member(平成 6 年 9 月～平成 12 年 3 月まで), 日本サイコオンコロジー学会世話人 (平成 5 年 9 月～平成 20 年 3 月まで), 日本医療催眠学会理事 (平成 23 年 9 月～平成 26 年 9 月まで), Biofeedback Certification International Alliance (BCIA), Fellow, International Society of Neurofeedback Research (INSR), Board Member of International Committee

主催研究グループ, 研究会

WHO/HQ/MNH WHO Quality of Life Research, International Collaborating Center in Japan, Head(平成元年～現在), WHO/HQ/MNH WHOQOL Cancer Module Research Group, Director (平成元年 6 月～平成 2 年 12 月), WHO/HQ/MNH WHOQOL Spirituality, Religiousness and Personal Belief (SRPB) International Collaborating Research Center in Japan, Head (平成 10 年 5 月～12 年 9 月), Schedule of Clinical Assessment (SCAN) Training and Reference Center in Japan, Head (平成 11 年 5 月～平成 12 年 5 月), WHO/EU WHOQOL and Healthy Aging project collaborating center in Japan, Head (平成 13 年), 臨床ニューロフィードバック研究会 (平成 28 年～現在)

退任にあたって

田崎美弥子

医学部心理学研究室教授

私は、名誉教授で病理学がご専門の石井壽晴先生からご紹介を受けたことで、稲松信夫先生の後任として2009年春に本学医学部一般教育連絡会に所属する心理学研究室に奉職させていただきました。本学に着任早々、当時一般教育連絡会が担当していた新入生の入学式、ガイダンス、2泊3日のフレッシュマンキャンプと一連の行事、さらにその翌週からの講義とメンター学生への指導が始まり、息をつく暇のないような忙しさで、東邦大学の洗礼を受けたような気が致しました。総合大学とは全くことなる学生と教員の距離の近さや、学生を本当に大切にすることに感銘を受けました。私の在籍中の時間は殆どが教育業務となりましたが、とても温かな記憶と貴重な経験として残っています。特に、最初にメンターとして世話をした二人の留年生は、1年生を2回繰り返しながら、キャンパスにも寄りつかない状態で、そのままであれば放校になると思いましたが、私の専門である応用行動分析学を適用してみることにしました。そのため、毎朝大量の料理を作り、昼ご飯を彼らに提供するという形で、とりあえず、毎日キャンパスに来てもらい、次に、研究室でレポートを書くように励まし、さらに研究室ではなく、図書館に行くように勧め、ついでに講義に出るようになってくれて、彼らは、無事に進級しました。その後は自分たちの努力で、無事卒業し、立派に医師になりました。彼らは今頃、自分たちが苦勞した分、落胆や失意にいる患者さんに寄り添うことができる良い医師になっていると思います。また、心理学の講義の中で、青年期は勉強ばかりではなく、異性・同性との交流や、部活、好きな趣味に没頭してほしいと伝えていたためか、対人関係や、劣等感、試験の重圧などから悩む学生が数多く訪れてくれました。暗い顔で部屋に入ってきて、最後は笑顔を

みせてくれたことが一番の私の喜びであったと思います。また、全人的医療人教育の責任者として医療体験実習を担当させていただいたことも印象に残っております。100名以上の学生を1日ずつ学内、学外の体験実習先に送り込むために医療機関への連絡や、送り出す前に学生のマナーや身だしなみを躰るために紫色の髪を黒く染めるように説得した事前学習の後、無事に2日間の実習日が終了する夕方まで、ずっと緊張をしていたように思います。彼らからしたたかった2日の実習だったでしょうが、本当に多くの熱心な先生方に御世話になりましたことを感謝申し上げます。

研究活動としては、主にICFへの改訂に基づいたWHO-DAS2.0日本語版調査票開発研究と、脳波のオペラント条件付けによる脳波振幅の制御により、望ましいネットワークを構築することで問題行動を解決するニューロフィードバック(NFT)研究の2つのテーマになりました。お陰様で、WHODAS2.0日本語版調査票は無事に出版でき、また、15年前には日本では誰も存在すら知られていなかったNFTは、今やHPの検索に数多くかかるようになりました。この15年間はあっという間でしたが、無事に退職の日を迎えられるようです。これは、ひとえに先生方や諸先輩、事務職員や他の職員の皆様、学生やご父兄、OBの皆さまのお陰と感謝しております。この場を借りて、心からお礼を申し上げたいと存じます。本当にありがとうございます。

東邦大学は、学生やOBの結束が強く、温かな雰囲気の中で、のびやかな感性をもった学生が多いように思います。今後も素晴らしい伝統を基盤に、東邦大学が益々発展されますことを心から祈念しております。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2023-041